

令和元年9月3日

長与町議会

議長 山口 憲一郎

研修報告書

長与町議会議員研修要綱第7条の2の規定により、次のとおり公表します。

1. 研修名（主催者） 令和元年度第1回市町村議会議員特別セミナー
2. 研 修 日 時 令和元年8月1日～2日
3. 研 修 先 全国市町村国際文化研修所（国際文化アカデミー）
4. 研 修 目 的 議員の資質向上及び議会の活性化に資するため
5. 研 修 参 加 者 中村 美穂 議員
6. 所 見

令和元年度第1回市町村議会議員特別セミナーとして様々な分野の第一線で活躍されている方々を講師としてお迎えし、地域を元気にするまちづくりについての研修でした。今までの受講してきたものと違い、まちづくりがテーマなので実際に携わる人の話を聴くことができた。

まず、1日目はオリエンテーションの後、滋賀県知事 三日月大造氏による「滋賀県の挑戦～みんなでつくろう！ 健康しが～」という演題で講演があった。

三日月氏は一橋大学経済学部を卒業後、JR西日本に就職後数年勤務の後、退職し政治の世界に入り、衆議院議員を連続4期、その後滋賀県知事に就任し、現在2期目。滋賀県は歴史もあり、平均寿命や健康寿命も全国上位であるが、健康しがとして新しい豊かさの追求、続く幸せを追求する切り口として人と人との支え合い、いろいろな生業、糧を得ていく、伸ばしていく活力、その人その人の自分らしさを大切にすることである。そこで人の健康、「食べる」健康づくりとして「滋賀めし」メニュー開発、大学や企業とのコラボレーショ

ン。また子ども達には様々な体験学習。スポーツ推進。社会の健康、大型観光キャンペーン、地域公共交通、次世代成長産業。自然の健康、活力ある林業、琵琶湖を使った取組み等、健康と言っても人だけではなく、生活する環境を含めていろいろなアイデアを常に生み出しているところは素晴らしいと思った。

次は、社会福祉法人佛子園 理事長 雄谷 良成氏による

「人生100年時代とごちゃませ社会」という演題での講演があった。

佛子園は障害児の福祉から始まり、型にはめない福祉、人の気持ちを尊重し、サポートする。施設ではなく地域で暮らす、障害があってもなくても老若男女あらゆる人がごちゃませで生き生きと暮らせる町をつくりたい。人が地域で暮らしていけるように、様々な才能を引き出したり、仕事ができる環境を造ったり、新しい福祉の形を実践している。視察も多いのだが、実際にどのような人々が生活しているのか理想のまちづくりを見てみたいと思った。

2日目はまず、同志社大学スポーツ健康科学部教授 二宮 浩章氏による

「スポーツツーリズムを活用したまちづくり：スポーツがもたらす地域活性化の効果」という演題での講演だった。

スポーツはまずスポーツをする、観る、支える等あるが、例えばマラソン、東京マラソンは参加するための応募倍率が12.1倍。今、ランニングブームであり、市場は拡大している。スポーツツーリストとは日常生活圏外の場所に一時的に滞在してスポーツに関わる活動をする人々をさすが、スポーツイベントに参加する人も、観戦に行く人もそれによって地域活性化の担い手となる。今後の自治体運営にはもっとスポーツを消費行動につなげるような取組みも検討していくべきだと思った。

最後に、月刊「ソトコト」編集長 指出 一正氏による

「関係人口のつくり方～ぼくらは地方で幸せを見つける～」という演題だった。

私は実際「ソトコト」という月刊誌を読んだことがなかったため、どのような話が聴けるのか逆に興味があった。関係人口というのは移住した定住人口でもなく、観光に来た交流人口でもない、地域と多様に関わる人々をさす言葉だそうで、自分が住んでいる地域ではなく新たに地域おこしなどでまちづくりに関わるとか、学生でその地域に魅力を感じて一定期間滞在するようなことを指すと思う。地域が活性化するためには、新しい風というか、何気ないアイデアが必要で、そのアイデアと行動力がまちをリニューアルさせてくれるようだ。地域の魅力を編集する、未来を作っている手応え、自分事として楽しいことが地方で幸せを見つけるソーシャルな視点らしい。いろいろな事例があるようだったので、時間が足りないくらいの話であった。新たな視点としてまちづくりに取り入れていきたい。